

令和2年度 檜祭 閉祭式 挨拶

○ 檜祭実行委員会の皆さん、各クラス、各部活動の皆さん、お疲れさまでした。

○ 檜祭実行委員会の皆さんや生徒活動支援の先生を中心に、コロナ禍の中で、感染防止に努めながら、どうやって文化祭を実現するか、何カ月前から検討してくれました。そして担任の先生や顧問の先生方の支えの下、各クラス、部活動の皆さんが頑張ってくれて、このようにとても良い檜祭となりました。

○ オンライン動画を中心にしながらも、対面式の部活動発表も行うということで、本当に苦労が多かったと思います。今まで、どこの学校もとかく「文化祭」の祭りの部分が強かったと思いますが、オンライン上で表現するという新しい文化を作ることにチャレンジした成果はとても大きかったと思います。

○ クラスの動画も、サスペンスものやフードバトルであったり、ダンスを踊ったり、歌詞やメッセージをつなげていくもの、それからピタゴラスイッチのものなど、本当に色々なクラスが工夫して自分たちで表現していることがわかりました。文化祭当日以上に、皆さんで考え、失敗しながら、みんなでつくる過程のほうが、楽しかったのではないのでしょうか。そしてこれらの記録は今後も残すことができます。

○文化部の発表も体育館やグラウンドの特設ステージ、生配信ライブとコロナ禍の対策のために様々な工夫をしてくれていて、本当によく頑張ってくれました。分教室も含めて文化部の展示作品も素晴らしかったです。また作成過程の動画を流しながら完成した黒板アートを見せてくれた美術部もとても良かったです。

○後夜祭については、暮れていく空の下で、見事なダンスパフォーマンスや綺麗な歌声がとてもよかったです。大声をだすことなくペンライトなどで応援する姿には感動しました。コロナ禍でも工夫すれば自分たちはできるのだという司会の生徒の言葉がとても印象に残りました。生徒の成長を実感できた素晴らしい檜祭だったと思います。

○ 祭りの後の寂しさは残ると思いますが、ここからは気持ちを切り替えて、ルールを守って、授業や部活動に頑張ってください。

令和2年 11 月 20 日
神奈川県立 瀬谷西高等学校
校長 小林幸宏